

埼玉県地域学校協働活動情報通信

コラボ

COLLABO

2024 Vol.4

特集 放課後子供教室活動見学会

嵐山町放課後子供教室スイミー





特集 放課後子供教室活動見学会

嵐山町放課後子供教室スイミー

令和六年十二月二十六日（木）、嵐山町教育委員会の御協力の下、嵐山町ふれあい交流センターで、放課後子供教室活動見学会を開催し、嵐山町放課後子供教室スイミーの活動を見学させていだいた。

活動見学会は、放課後子供教室の充実を図るため、放課後子供教室のコーディネーターやスタッフ、市町村担当者を対象に、他市町村の活動現場を見て学び、自身の活動の幅を広げることを目的として、実施している。

嵐山町放課後子供教室スイミーは、地域との連携を活動の基本として、様々なふれあいや体験活動をとおして、子供の健康やかな育成に著しい成果を上げている団体として、令和三年度に「埼玉・教

育ふれあい賞」を受賞した団体である。

「スイミー」という名前は、絵本に登場する主人公の魚の名前から名付けられたもので、「自分で考え自分で行動できる」ことを目標に、異なる学校・学年の子供たちと、地域の方々との交流を通じたモノ作りなどの体験学習を行い、「みんなで一つのことを作り上げる喜びを感じてほしい」という思いが込められている。

嵐山町放課後子供教室スイミーは、町内の三つの小学校の一年生から六年生までを対象として、嵐山町ふれあい交流センターを拠点に活動しており、今年度（活動見学会時点）の登録児童数は五十七人である。スタッフは、コーディネーター一人、教育活動推進員一人、教育活動サポーター二人で、町内の中学校や高等学校の生徒等もボランティア

特集 放課後子供教室見学会

【嵐山町放課後子供教室スイミーの通常活動と特別活動】

	内容	令和6年度活動例
通常活動	自由遊びや宿題 の他、町立図書館 の司書による読み 聞かせをおこなう などの社会性も育 む内容。	工作 ボードゲーム バドミントン 宿題 読み聞かせ 等
特別活動	科学の不思議を 学んだり、調理体 験、防災体験、ク リスマスリース作 り、茶道体験、芋 ほり体験など地域 の方々との交流を 通して、学校生活 では体験できない 内容を実施。	自然教室 (嵐山町教育委員会生涯学習課・講師) クッキング教室 (地域の洋菓子店経営者・講師) 理科実験教室、調理体験、リース教室 (大妻嵐山校と連携) さつまいも堀り (地域住民との交流) バス見学 (県外見学・向井千秋記念子供科学館) (県内見学・埼玉県防災学習センター・ さきたま史跡の博物館) 等

ティアとして参加している。

●

嵐山町放課後子供教室
スイミーの活動は、通常
活動と特別活動の二種類
がある。通常活動は、平日
の放課後16時から17時
まで、月3回程度実施し

ている。特別活動は、休日や夏休み・冬休み等に月2回程度、幅広い地域の住民や団体、学校等と連携をして、普段の学校生活ではなかなか体験できない活動を実施している。

活動内容については、コーディネートを中心
に、スタッフや町担当者



子供たちに説明する
コーディネーターの藤原さん

で話し合って決めている。今回の活動見学会では、お正月のしめ縄飾りをつくる特別活動（プログラム名「お正月飾りづくり」）を見学させていた。このプログラムは、地域の方を講師に招いて、日本の行事に触れるとともに、学校で体験が難しいであろう藁をなうことを子供たちに体験してもらおうと企画されたもので、活動には、地域の大学生や高校生もボランティアとして参加していた。



藁をなう様子

コーディネーターの藤原さんが「今年も一年ありがとうございました。」また来年もよろしく願います、という願いを込めて藁をなうんだよ。」と子供たちに説明してから活動が始まった。子供たちは、お正月飾りのしめ縄を作るために、一生懸命に藁をなっていた。なかなか上手く藁をなえない子供たちに、



ボランティアの学生に教わりながら作成

コーディネーターやスタッフが優しく声を掛け支援する。

事前に打合せ準備を行っているため、スタッフの方々の連携が素晴らしい。ボランティアの学生も進んで子供たちと関わっている。

子供たちは、スタッフと一緒にやってどのような飾り付けをするか話し合っていたり、ボランティアの学生に出来上がった飾りを見せたりするなど、和気あいあいと作業し、一人一人がオリジナリティいっぱい作

品を作っていた。

子供たちが楽しんで活動に参加している様子を見て、「体験格差」という言葉がうかんだ。「体験格差」とは、学校外で子供が行う遊びや習い事、旅行などの体験機会を得られるかどうか、経済的困窮や社会の孤立、地域差などの事情で子供によって差が生じていることを表す言葉である。

子供の頃の「体験」は未来社会を担う子供たちの健やかな成長に必要な要素である。

子供の頃の体験が豊富な人ほど、「経験したことの少ないことには、何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」や「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった「規範意識が身に

ついている」傾向があり、「自己肯定感」などが高いとのことである。また、子供の頃の体験が豊富な人ほど、「文化的作法・教養」が高く、自立的行動習慣や探究力が身につけている傾向があり、非認知能力が高いという。

嵐山町放課後子供教室スイミーは、地域のつながり、ネットワークを大切にしながら、地域と一緒にになって子供たち様々な体験活動を提供している。親の就労状況等に関係なく、誰でも参加できる放課後子供教室は、そのような子供の体験機会に、格差を生じさせない取組であると感じた。

町担当者である嵐山町教育委員会生涯学習課の岡田氏は、「子供は、いろいろな可能性を秘めている。様々な体験を通して、子供たちの可能性を広げていきたい。もっと子供たちにできることが

あるのではないかと考える。例えば、嵐山町にある遺跡、城の探訪など自課の強みを活かした体験活動や嵐山町役場の他課と連携した活動を実施して、子供たちに豊かな体験をしてもらえたら。」と語っていた。

参加者の声

コーディネーターさんたちの事前準備がすごいと思いました。子供たちが満足できるように頑張っているのだと思い感動しました。

(放課後子供教室関係者)

放課後子供教室の目標設定が明確になっていました。参加する児童が主体として、児童自ら考え活動するというコンセプトが印象に残りました。

(行政関係者)

地域の中学生、高校生のボランティアを是非取り入れてみたいと思いました。

(放課後子供教室関係者)

ボランティアがたくさん集まり、地域の方々の協力もあり、地域の力はとても大きいと実感しました。

(放課後子供教室関係者)

放課後児童対策パッケージ2025



放課後児童対策パッケージ2025（令和6年12月）概要



趣旨

- 「新・放課後子ども総合プラン」「放課後児童対策パッケージ2024」の実施により、受け皿確保は目標としていた152万人分をほぼ達成（151.9万人）。一方で、待機児童数は令和6年5月1日時点で1.8万人と、令和5年度の同時期（1.6万人）に比べて増加。
- 待機児童対策の一層の強化と放課後の児童の居場所確保に向け、こども家庭庁と文部科学省が連携し、予算・運用等の両面から令和6～7年度に集中的に取り組むべき対策として充実を図り、パッケージを改訂するものである。

1. 放課後児童対策の具体的な内容について

放課後児童クラブの実施状況 (R6.5.1) 登録児童 151.9万人 待機児童 1.8万人
(R6.10.1) 登録児童 147.1万人 待機児童 0.9万人

(1) 放課後児童クラブにおける待機児童の解消策

1) 放課後児童クラブを開設する場の確保

- 施設整備に係る補助率の高上げ[R6補正]
- 学校（校舎、敷地）内における整備推進
- 学校外における整備推進（補助引き上げ）
- 賃貸物件等を活用した受け皿整備の推進（補助引き上げ）
- 学校施設の積極的な活用
- 保育所等の積極的な活用
- 民間事業者による参入支援[R6補正]
- スモールコンセッションによる事業所整備の周知

2) 放課後児童クラブを運営する人材の確保

- 常勤職員配置の改善
- 職員に対する処遇改善
- 職員の確保支援[R6補正]
- 平日夜間の人材確保支援[R7拡充]
- 保育士・保育所支援センター等やハローワークと連携した人材確保支援
- ICT化の推進による職員の業務負担軽減[R6補正]
- 育成支援の周辺業務を行う職員の配置による業務負担軽減
- 放課後児童クラブ分野のDX化による職員の業務負担軽減[R6補正]

3) 適切な利用調整（マッチング）

- 正確な待機児童数把握の推進、待機児童の詳細の公表
- 利用調整支援や送迎支援の拡充による待機児童と空き定員のマッチングの推進等

4) 時期的なニーズ等への対応

- 夏季休業期間中における開所支援[R7拡充]
- 年度前半の開所支援のあり方の検討
- 支援の単位あたりの児童数の考え方の検討

5) 自治体へのきめ細かな支援とコミュニティ・スクールの仕組みの活用推進

- 待機児童が多数発生している自治体への支援
- コミュニティ・スクールの仕組みを活用した放課後児童対策の推進

(2) 全てのこどもが放課後を安全・安心に過ごすための強化策

1) 多様な居場所づくりの推進

- 放課後児童クラブと放課後子供教室の校内外交流型・連携型の推進[R7拡充]
- こどもの居場所づくりの推進(モデル事業、コーディネーター配置)【一部R6補正、R7拡充】
- コミュニティ・スクールの仕組みを活用した放課後児童対策の推進(一部再掲)
- 特別な配慮を必要とする児童への対応【一部R6補正】
- 放課後児童クラブ待機児童への預かり支援実証モデル事業[R6補正]
- 朝のこどもの居場所づくりの推進（好事例周知、機運醸成等）
- 能登半島地震を踏まえた災害時の放課後等におけるこどもへの支援

2) 放課後児童対策に従事する職員やコーディネーターする人材の確保

- 常勤職員配置の改善(再掲)
- こどもの居場所づくり支援体制の構築等を行うコーディネーター配置支援(再掲)
- 地域学校協働活動推進員の配置促進等による地域学校協働活動の充実

3) 質の向上に資する研修の充実等

- 放課後児童対策に関する研修の充実
- 性被害防止、不適切な育成支援防止等への取組【一部R6補正】
- 事故防止への取組
- 「はじめの100か月の育ちビジョン」と連携した広報
- 放課後児童クラブ運営指針の改正
- いわゆる「スキマバイト」への対応

2. 放課後児童対策の推進体制について

(1) 市町村、都道府県における役割・推進体制

- 市町村の運営委員会、都道府県の推進委員会の継続実施
- 総合教育会議の活用による総合的な放課後児童対策の検討

(2) 国における役割・推進体制

- 放課後児童対策に関する二省庁会議の継続実施
- 放課後児童対策の施策等の周知

3. その他留意事項について

(1) 放課後児童対策に係る取組のフォローアップについて

- 放課後児童クラブの整備<152万人の受け皿整備を進め、できる限り早期に待機児童解消へ>
- 放課後児童クラブと放課後子供教室の連携<同一小学校区内でできる限り早期に全てを連携型へ>
- 学校施設を活用した放課後児童クラブの整備<新規開設に当たり所管部局が求める場合、できる限り早期に全て学校施設を活用できるように>

(2) 子ども・子育て支援事業計画との連動について

(3) 子ども・子育て当事者の意見反映について

※丸数字の下線は、主な新規・加筆項目

こども家庭庁と文部科学省において、放課後児童クラブの待機児童等の早期解消等による待機児童対策の一層の強化と児童の居場所確保に向け充実を図り、予算・運用等の両面から令和6～7年度に集中的に取り組むべき対策として、「放課後児童対策パッケージ2025」を取りまとめました。

本パッケージについて、教育委員会関係各課では、特に以下の点を御確認いただき、関係部局間と連携の上、適切に対応いただきますようお願いいたします。

- 「放課後児童クラブを開設する場の確保」に向けて、学校施設の積極的な活用を推進すること。その際、学校における働き方改革の観点も踏まえ、学校施設の管理運営上の責任体制を明確化すること。
- 放課後児童クラブと放課後子供教室の連携を引き続き促進すること。
- 自治体における部局間の連携を密にするとともに、放課後児童クラブ関係者と学校関係者の間で十分な連携・協力を図ること。この点、総合教育会議やコミュニティ・スクールの積極的な活用を推進すること。

地域学校協働活動 NEWS

埼玉県地域学校協働活動推進フォーラム

令和6年11月22日（金） オンライン開催

講師

朝倉 美由紀 氏

文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部 特任教授

演題

コミュニティ・スクールと
地域学校協働活動の一体的推
進（子供の学びを創る）

概要

- 学校運営協議会制度の理
解のために
- 子供・学校・地域の今日
的課題
- 制度としてのコミュニ
ティ・スクール
- 社会に開かれた教育課程
の観点から
- 学校マネジメント

事例発表者

大塚 祥子 氏

ふじみ野市立三角小学校

学校運営協議会委員

学校応援団

地域コーディネーター

鼎談登壇者

朝倉 美由紀 氏

文部科学省CSマイスター
明星大学教育学部 特任教授

竹原 和泉 氏

文部科学省CSマイスター
特定非営利活動法人

まちと学校のみらい 代表理事

岡野 正一 氏

越生高校魅力UP協議会
地域コーディネーター

鼎談タイトル

一緒に創ろう、学校と地域
の学びの未来（子供の学びをど
うするか）

概要

- 「社会に開かれた教育
課程」の実現に向けて
- 学校マネジメント

事例タイトル

こどもの学び

概要

- こども読み手誕生
 - みんなの居場所
- 多目的トライルーム

参加者の声

自校の目指す子供像を地域と共有することは、これまでの学校の活動で足りていなかったのではと反省。どんな子を育てたいのか活動の目的を見失わないようにしたい。（教職員）

先生と地域の人が何気ない会話をできる場があることが大切だと思った。少し気軽に話し合える場があると、互いの理解が進み、信頼関係の構築にもなると感じた。（学校運営協議会委員）

地域のリアルを見ることで子供自身が課題を見出し、そこから深い学びにつながる。コーディネーターとして、学校に適格な地域人材を紹介してきた経緯もある。しかし、地域学校協働活動について保護者の認知度は低い。保護者に周知させるためには、カリキュラムと関連づけた活動の可視化は重要と受け止める。（学校運営協議会委員・地域学校協働活動推進員）

ふじみ野市立三角小学校の大塚さんの素敵なお人柄による発表、ざっくばらんな鼎談も、聞いていて参考になることばかりでした。学校運営協議会における熟議とは、新たな行事を創るために話し合うことではないということ。既存の教育活動を効果的かつ重層化する取組を考えていきたいと思いました。（教職員）

子供の力や心を育てるために考えることは、学校と地域、相互の発展につながっていくことだということ。「主語は子供」という言葉が出てきた。子供たちが実体験を重ね、成長していける活動を推進したい。（行政関係者）